

伝える！ 国連の仕事

「未来を変える」その可能性に期待と注目を



訪日したライダー事務次長(右)が外務省の上川陽子大臣を表敬訪問した様子
＝6月14日、東京都千代田区

坂本あゆみさん撮影

世界の平和や国際協力などのため活動する「国際連合」(国連)。その動きを伝える国連広報センターは、国連と日本人をつなぐ役割があります。日本は重要な加盟国のため、アメリカ・ニューヨークの国連本部から多くの幹部たちが訪れます。日本での目的が果たせるよう調整するのもセンターの仕事です。センター長の根本かおるさんが伝えます。



未来サミット

2024年9月にアメリカ・ニューヨークの国連本部で初めて開催されます。国連総会に出席する各国の指導者たちが、未来サミットでは、すべての人類と将来世代のため、今の世界が直面している課題を見つめ直し、未来の世界をよくなる方法について話し合います。

具体的には、国連を中心に世界の国々がまとまろうとする力を強めるための仕組みについてや、SDGs(持続可能な開発目標)を達成していくスピードを早める方法などを議論し、「未来のための協定」をまとめる予定です。



国連の未来サミットの開催に向けた準備のためにケニアで開かれた国連市民社会会議の様子＝5月

© UNIS Nairobi

国連の将来を左右する重要な会議の準備

国連で事務次長、副事務次長、官房長に次いで高い地位にあるガイ・ライダー事務次長が6月12日から14日まで日本に来ました。9月に国連本部で行われる国連の一大イベント「未来サミット」を成

政策決める場に若者が参加できる道を

功させるための準備です。未来サミットは国連の総会で世界のリーダーたちが大勢集まるタ

来日したライダー事務次長は日本での滞在を最大限活用しようとして、午前9時に羽田空港に到着。ホテルでシャワーを浴びると、その日の午前中から活発に日本の関係者との会議にのぞいていました。国連の幹部は時差をものともせず、世界中の国々を相手に熱い議論をくり広げなければならず、スタミナがなければ務まりません。忙しさのあまり昼食をとれない日もありました。『チョコレート顔を見せる場面もありました。かさらない人柄なんですよ。』外務省の上川陽子大臣をはじめ、関係者との関係者と面会。ライダー事務次長の予定の調整に知恵を借り、日本の若者たちと意見交換する機会も実現できました。

ライダー事務次長が未来サミットのためにがんばる理由は、国連の将来だけでなく、若い世代の未来にも関わる大切な会議だからです。

「私たちのことを、私たち抜きに決めるのを、私たちが参加できる道を」



ねもと かおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒、アメリカ・コロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー・記者などを経て、1996年から2011年まで国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) で勤務。国連世界食糧計画 (WFP) 広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。